

「明治大学商学部」学生への推薦書籍

2023年6月1日改訂
明治大学 商学部 教授
山田 知明

明治大学商学部では、経済学A・Bを1年生向け必修科目としています。また1・2年生向けに様々な経済学関連科目が用意されています。私も含めて全ての教員は、「自分が教えている分野は興味深く、学ぶ価値がある大切な学問だ。」と強く信じています。しかし、マーケティングや経営学を学びたい学生、あるいは公認会計士・税理士を志す学生の中には、経済学部に入ったわけではないのに、経済学が必修化されていることに納得がいかない人もいるかもしれません。

経済学は、決して専門家だけが知っていればよいというものではありません。大学卒業後ビジネスパーソンになっていくであろう多くの商学部生にとっても、より良い経済・社会システムを構築していく上で、経済学の知識は必要不可欠です。例えば、市場メカニズムの仕組みと政府の役割、知的財産権の保護のような制度設計、極度の貧困の撲滅と経済発展、環境保護と持続可能な経済成長といったテーマは、現在の地球に住む全ての市民に共通する課題といえます。

経済学は机上の学問ではなく、「実用的なツール」です。しかし、ツールを身につける勉強にはどうしてもテクニカルな部分があるため、本来の目的を見失ってしまう人もいます。幸い日本・世界の一流経済学者が一般向けに「面白い本」を書いてくれています。ここでは経済学の面白さを伝えてくれている書籍をピックアップしました。当然、網羅的に全てを挙げているわけではありませんので、是非自ら本屋に出向いて色々な本を手にとってみてください。

経済学的な発想の仕方を学ぶ

- ◇ スティーブン・レヴィット/スティーブン・ダブナー(2007)『ヤバい経済学 [増補改訂版]』東洋経済新報社
- ◇ スティーブン・レヴィット/スティーブン・ダブナー(2010)『超ヤバい経済学』東洋経済新報社
- ◇ スティーブン・レヴィット/スティーブン・ダブナー(2015)『0ベース思考』ダイヤモンド社
- ◇ ダニエル・S・ハマーマッシュ (2015) 『美貌格差』東洋経済新報社
- ◇ スティーブン・レヴィット/スティーブン・ダブナー(2016)『ヤバすぎる経済学』東洋経済新報社
- ◇ ウリ・ニーズィー/ジョン・A・リスト (2015) 『その問題、経済学で解決できます。』東洋経済新報社
- ◇ 中室牧子 (2015) 『「学力」の経済学』Discover

経済学入門

- ◇ 伊藤秀史(2012)『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣

- ◇ 一橋大学経済学部編 (2013) 『教養としての経済学』有斐閣
- ◇ 「経済学の魅力と有用性 学ぶ側の視点から」経済セミナー2019年4・5月号
- ◇ 市村英彦・岡崎哲二・佐藤泰裕・松井彰彦『経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業』日本評論社

経済学のフロンティアを垣間見る

- ◇ ジョン・マクミラン(2012)『新版 市場を創る』慶應義塾大学出版会
- ◇ ダロン・アセモグル/ジェイムズ・A・ロビンソン(2016)『国家はなぜ衰退するのかー権力・繁栄・貧困の起源 (上・下)』早川文庫
- ◇ 伊神満(2018)『「イノベーターのジレンマ」の経済学的解明』日経BP社
- ◇ ジャン・ティロール(2018)『良き社会のための経済学』日本経済新聞出版社
- ◇ デヴィッド・ウォルシュ『ポール・ローマーと経済成長の謎』日経BP
- ◇ ダロン・アセモグル/ジェイムズ・ロビンソン(2020)『自由の運命』早川書房
- ◇ リチャード・セイラー/キャス・サンスティーン(2022)『NUDGE 実践 行動経済学 完全版』日経BP

世界経済が直面する課題：貧困

- ◇ ジェフリー・サックス(2006)『貧困の終焉』早川書房
- ◇ ラグラム・ラジャン/ルイジ・ジンガレス(2006)『セイヴィング・キャピタリズム』慶應義塾大学出版会
- ◇ アビジット・バナジー/エステル・デュフロ(2020)『絶望を希望に変える経済学』日本経済新聞社

統計学とその経済問題への応用：因果推論

- ◇ 西内啓 (2013) 『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社
- ◇ 中室牧子・津川友介 (2017) 『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社
- ◇ 伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書

日本経済を学ぶ

- ◇ 宮本弘暁(2022)『51のデータが明かす日本経済の構造』PHP新書
- ◇ 宮本弘暁(2022)『101のデータで読む日本の未来』PHP新書
- ◇ 渡辺努(2022)『世界インフレの謎』講談社現代新書

経済学ではないけど周辺分野として

- ◇ ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄 上・下』草思社文庫
-

本格的に経済学を学習したくなったら、マクロ経済学、ミクロ経済学と計量経済学という3つの分野をしっかり身につける必要があります。こちらで教科書は大量に世の中に存在しますが、多すぎて選べない人向けにオススメのテキストをいくつかピックアップしておきます。繰り返しのようになりますが、ここに挙がっていなくても良書はあります。

マクロ経済学

- ◇ 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久 (2010) 『新版 マクロ経済学』有斐閣
- ◇ 福田慎一・照山博司 (2016) 『第5版 マクロ経済学・入門』有斐閣
- ◇ ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト(2019)『ALL マクロ経済学』東洋経済新報社

ミクロ経済学

- ◇ 神取道宏(2014)『ミクロ経済学のカ』日本評論社
- ◇ スティーヴン・レヴィット/オースタン・グールズビー/チャド・サイヴァーソン『レヴィット ミクロ経済学 基礎編・発展編』東洋経済新報社

統計学・計量経済学

- ◇ 田中隆一(2015)『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』有斐閣
- ◇ 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』中央経済社
- ◇ 畑農鋭矢・水落正明(2017)『データ分析をマスターする12のレッスン』有斐閣アルマ

ゲーム理論

- ◇ 梶井厚志・松井彰彦 (2000) 『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
- ◇ アビナッシュ・ディキシット/バリー・ネイルバフ(2010)『戦略的思考をどう実践するか』阪急コミュニケーションズ

経済学で使う数学

- ◇ 尾山大輔・安田洋祐編著 (2013) 『改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める』日本評論社